

# まち連 NEWS

平成 27 年 5 月 創刊号 発行：一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会

## 身近な情報紙・まち連ニュースを創刊

蕨市にぎわいまちづくり連合会の全会員並びにサポーターの皆様、日ごろから当まち連に対してご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

まち連では、これまで以上にまち連の活性化と実り多い事業推進を願って、「まち連ニュース」を発行することになりました。毎号、まち連のトピックスや知って得する暮らしの情報などをお届けいたします。創刊号は、第1回理事会の話題を特集しました。

## 第1回理事会を開催

4月24日の金曜日、まち連事務所において平成27年度の第1回理事会が開催されました。当日は、まず初めに

岡田理事長より、①市が中心となって策定した『中心市街地活性化基本計画』が、3月27日に内閣府の認定を受けたこと。②そこで今年度は、いよいよ中心市街地活性化を推進する実行の年であること。更には、③新たに、猪瀬典夫さん

をタウンマネージャーとしてお迎えし、まち連

事業全般にわたり、具体的なアドバイスをいただけることなどのご挨拶がありました。

続いて、施設運営・都市開発委員会の貫井委員長から、昨年度2件の空き店舗活用が実施され、引き続き事業推進に努めていきたいとの報告がなされました。

## ■まち連が新体制に

池上専務理事からは、まち連の新体制について

の説明があり、タウンマネージャーとして就任される猪瀬典夫さんを紹介。

猪瀬さんは、都市計画をはじめ、産業振興や商店街整備、中心市街地活性化等の専門家として、まちづくり活動、地域振興等の企画・事業化支援・指導など、全国で幅広く活躍中です。

蕨市では、平成21年度から中心市街地活性化や蕨宿く食の交流拠点整備事業などのコンサルティングに携わり、蕨市に精通されていることから、まち連のタウンマネージャーとして最適任の方です。

また、まち連事務局には、新たに事務局長として茂木和明さんが事務のお手伝いをする事になりました。

茂木さんは、平成26

年3月に蕨市役所を定年退職。秘書広報課や情報管理課、議会事務局などに携わりました。

## ■まち連の主な事業

今年度の事業については、タウンマネージャーの猪瀬さんが、認可を受けた『中心市街地活性化基本計画』を通して説明。主な事業として①歴史民俗資料館分館において、平成28年度実施予定の「蕨市く食の交流拠点整備事業」の具体的な計画を立案すること。②既存店舗のPRとコミュニティ促進を目的に、「四季を味わう」日曜日の夕べ交流会事業」を是非とも市内8商店街に広げていきたい。そして、③ワンデイシェフレストランの取り組みなどについて説明がありました。（裏へ続く）

### ■中小機構を活用

中でも、ワンデイシェフレストランについては、市の商工生活室が開講していた「わらび創業講座」の一環で、5月中は、「わらびお茶漬け本舗」や「おやこカフェ」や「スモージーCafe七色」など、5つのグループによる体験出店が行われていること。

併せて、6月以降の活用について一般公募を実施してきたところ1件の希望があり、今後、選定委員会に諮られることなどの報告がありました。

また、今後のワンデイシェフレストランの長期にわたる安定的な管理・運営を確立することを目的に、「中小企業基盤整備機構（中小機構）」の支援が受けられるこ

とが紹介され、積極的に活用する方向で意見がまとまりました。

### ■若手も交え議論を

参加者の皆さんからは、建設的な意見交換が行われました。概要をお伝えします。

例えば、「若手や女性の視点も重要であり、理事会だけではなく、是非ともこうした皆さんも交えて議論を進めることが良いのではないか」

「まち連としては、このまちをどのようなまにしたいのかをまず考える。蕨は基本にお年寄りが安心して暮らせるまちといった方向性、目標を確立するなど、ターゲットを絞ることが大切と思う」

「全体目標ということであれば、それは行政なのか、まち連なのか、そ

他の機関なのか、どこが決めることなのだろうか」

「まち連の事業がスタートした時点のことが分かりにくくなっている点もある。基本計画が認定されたとのことで、ここで改めて各事業の見直しを図ることも大切ではないか」

「例えば、くらしのサポート事業は、身近な生活に即したサービスであり、採算性に関して現時点では難しい面もあるが、利用者に変喜ばれているし、生きがい対策ともなっている」

「確かにこうした事業は、シニアが支えている助け合いなどもマスクミで紹介されている。支え合いは正しい。新たな企画として、私たちは3商店街合同で、トイレでまちの活性化と銘打っ

て事業を進めている」

「昨年、我が商店街では、子ども縁日を開催したが、驚くほど大盛況だった。ターゲットを間違えなければ成功する例だと思う」

「今後、まち連の課題としては、いろいろなアイデアがあると思うが、誰が、どのように実行に移していくかだ。先程、中小機構を活用する方向性が決定されたが、若い人たちにも入っていただき、議論することが大切だ。また、各商店街にも要望があれば、どんどん入っていきなす」

### ■市計画も読み込む

「蕨市の計画はほとんどがソフト事業というのも特徴である」

「全体計画、目標といつても市のビジョンがきちんとあるので、まち

連が個別事業を進める際には、こうしたビジョンを同時に読み込んでいくことも必要となる」

「今年度は、基本計画にも入っている四季を味わう交流会事業が、毎週市内のどこかで開催されていることが理想なので、各商店街のご協力のもと、ぜひ、実現していきたいと思う」

概ね以上のような意見交換が行われました。

\*文責 〓まち連事務局

編集メモ  
『まち連ニュース』第1号  
はいかがでしたでしょうか。これからも引き続き情報満載でお届けしたいと思えます。充実した紙面のために、ご意見やご感想、更には情報提供をお待ちしております。